

雨量と災害の関係

(気象庁資料から)

1時間雨量	人の受けるイメージ	災害発生状況
10～20ミリ	ザーザー降る	長く続くときは注意が必要
20～30ミリ	どしゃぶり	側溝や下水、小さな川が溢れ、小規模の崖崩れが始まる
30～50ミリ	バケツをひっくり返したように降る	山崩れ、崖崩れが起き易くなり、危険地帯では避難の準備が必要。 都市では下水管から雨水が溢れる。
50～80ミリ	滝のように降る	都市部では、地下室や地下街に雨水流れ込む場合がある。 土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する
80ミリ以上	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、嚴重な警戒が必要

※雨量が同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質などの違いによって被害の様子は異なることがあります。

水俣市における気象情報等の基準値(熊本气象台)

	要素	基準値
大雨注意報	1時間降水量	40mm
	土壌雨量指数	120
大雨警報	1時間降水量	70mm
	土壌雨量指数	174

※土壌雨量指数とは、降った雨が土壌中に水分量としてどれだけ貯まっているかを、これまでに降った雨(解析雨量)と今後数時間に降ると予想される雨(降水短時間予報)等の雨量データから指数化したものです。高いほど、土砂災害などが発生しやすくなっています。

台風の大きさと階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

台風の強さと階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s以上～44m/s未満
非常に強い	44m/s以上～54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

風の強さと被害

平均風速(毎秒)	影響
10～15m	風に向かって歩きにくい。看板やトタン板が飛ぶ。
15～20m	歩くことができない。高速道路での運転は困難。
20～25m	しっかり身体を確保しないと転倒する。車の運転は危険。
25～30m	立ってられない。樹木が倒れ、ブロック塀が壊れる。
30m～	屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。